議員定数削減反対！緊急アクション足立

衆議院議員定数削減に反対します！―足立のまちからの緊急声明

2026年11月 10 日

2026 年 10 月 29 日、自民党、日本維新の会、国民民主党の 3 党は、衆議院の比例代表議員定数を 31 議席削減することなどを柱とする選挙制度改革案に正式合意、関連法案を共同提出する方針を確認しました。これまで 45 議席減の法案（継続審議）に反対していた国民民主党が、今回、与党側の「折衷案」に賛成したことで、今国会での議員定数削減が実現しかねない情勢です。

私たち「議員定数削減反対！緊急アクション足立」は、国会議員の定数削減に強く反対します。

第1の理由として、上記 3 党は定数削減の理由を近年の人口減少に求めていますが、これは道理がたちません。日本の国会議員の数は人口当たりでは世界でも極めて少なく、世界 193 か国中 172 位という低さです。これ以上減らす理由は見出せません。日本の議会史を振り返っても、今より大幅に人口が少なかった時代でも議員定数は現在と変わらないどころか、多かったという歴史があります。

第2に、定数削減は「民意」と「主権者の声」を切り捨てる行為です。大臣辞任に追い込まれた自民党・簗和生衆議院議員に対する「権力の私物化」との批判が示すように、本来、議員は私たち国民の声を反映するものです。議員の数が減れば、市民・国民の声がそれだけ国政に届きにくくなります。

第3に、今回の合意内容では小選挙区と比例代表のバランスが大きく崩れ、大政党に有利とされる小選挙区の比重がさらに大きくなります。修正サンラグ方式の導入など他の項目が含まれているとはいえ、比例定数削減ありきの提案が党利党略であることに変わりはありません。憲法改正や軍備拡大を進める与党のもとで、熟議なき強行採決のさらなる横行が予測されます。

第4に、地方ブロックの再編や、議員の数の削減により、地方の声の切り捨て、地域課題に対応した力、声の減退につながります。

第 5 に、定数削減により、政府、行政のチェック機能が劣化し、熟議の機能がさらに弱体化します。結果として国民の利益を損ないます。

第 6 に、個人の尊重を実現するためには、マイノリティを含む多様な人々が「国民の代表者」として国会に参画することが不可欠ですが、比例定数削減はその機会を大幅に狭めることになります。

第7に、比例定数削減は、異常なほど低い女性議員比率をさらに下げます。国際的な評価も下がり、ジェンダー平等が後退します。政治分野における男女共同参画推進法の趣旨にも反します。

第 8 に、比例定数削減は新人議員（候補）にも不利であり、議会の新陳代謝を阻害します。

第 9 に、31 人を削減してもコスト減は歳出規模からするとほんのわずかです。国民一人あたりに換算しても 25 円程度の節約にすぎません。このわずかな財政節約のために議員定数を削減するというのであれば、民主主義の致命的な後退、国会機能の劣化という代償はあまりにも大きすぎます。

選挙制度は議会制民主主義の根幹です。このたびの 3 党の合意内容は議会制民主主義への軽視、破壊につながるものです。他党の反対を押し切って強引に突き進もうとする 3 党の方針を、私たちは強く非難します。

私たちは、議員定数削減に反対する声を、地域から、そして全国の市民へと広く呼び掛けます。

議員定数削減反対！緊急アクション足立：
足立・性的少数者と友・家族の会　／国民に「血を流していただかないと」自民党土田しん議員発言を問う会・足立有志　／　市民連合あだち有志　／大滝慶司・足立区労連議長

事務局：西山千恵子